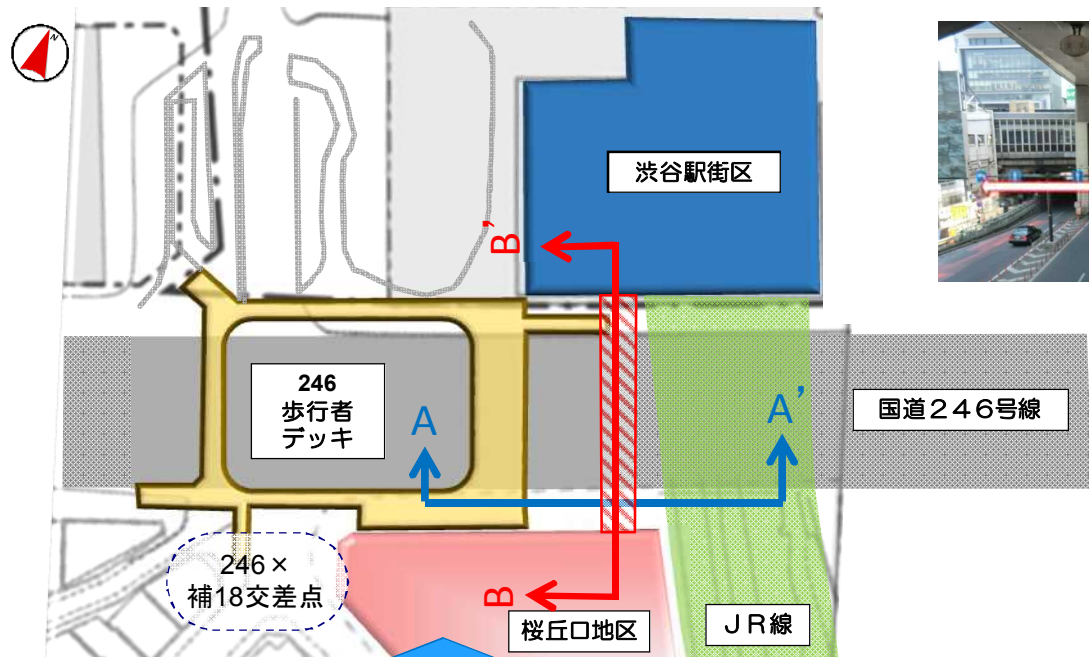


低いレベルの横断の検討経緯について

- 平成 22 年 4 月～ 「まちづくり指針分科会」にて、国道 246 号の地上横断の検討要望が、まちづくり協議会等から出される。指針では、「低いレベル」（桜丘口再開発事業の敷地と同じレベルの主旨）として検討することを位置付ける方向性が決まる。
- 平成 23 年 3 月 「渋谷駅中心地区まちづくり指針 2010」において、「国道 246 号による南北のまちの分断」という課題解消に向け「低いレベルでの国道 246 号歩行者の横断動線の検討」を明記。
- 平成 23 年 5 月～ 「渋谷駅中心地区まちづくり調整会議」（※1）及び「渋谷駅中心地区まちづくり調整部会」（※2）において、「低いレベルの横断」の課題整理・技術的検討が継続して行われる。
- 平成 24 年 10 月 「渋谷駅中心地区基盤整備方針」において、「地上階」の整備内容として、「低いレベルの国道 246 号歩行者の横断については、協議・調整中」と記載。
- 平成 25 年 10 月～ 地元説明会で、低いレベルの横断の検討状況について説明
- ・平成 25 年 10 月 8 日 （会場 桜丘町施設）
 - ・平成 25 年 11 月 5 日 （会場 246 ホール）
 - ・平成 26 年 2 月 25 日 （会場 246 ホール）
- 平成 26 年 3 月 「第 13 回 渋谷駅中心地区まちづくり調整部会」及び「第 9 回 渋谷駅中心地区まちづくり調整会議」にて、「低いレベルの横断」についての検討結果の最終報告。
- （物理的には、国道 246 の両街区側の段差解消処理が必要となり、設置が困難であるが、平常時におけるバリアフリー動線の確保、大規模災害時における人的誘導による平面横断が確認できたため、検討を終了する旨報告。了承。）

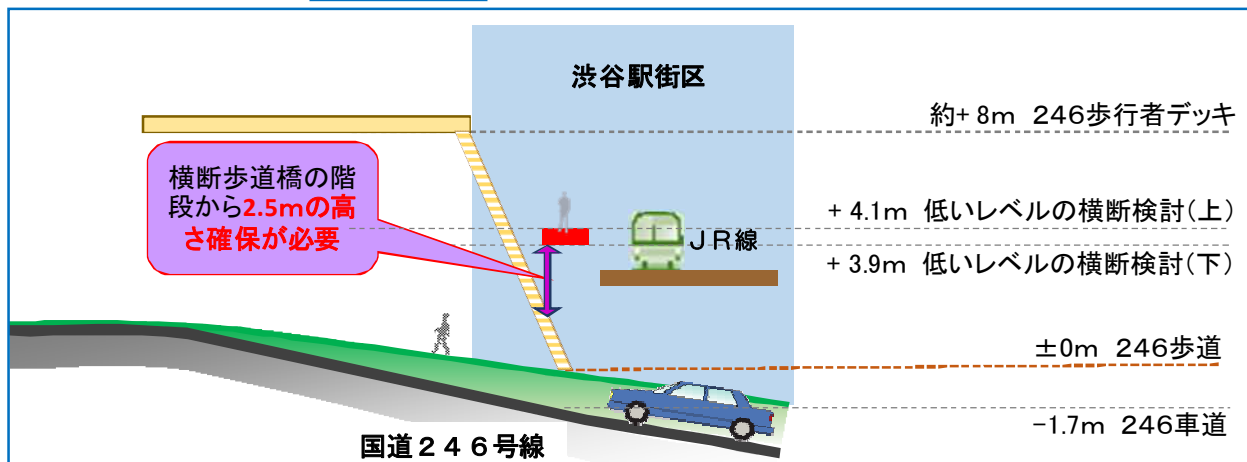
※1 「渋谷駅まちづくり指針 2010」に基づき、都市基盤整備に伴う計画調整及び課題調整等を行うために渋谷区が設置。座長：政策研究大学院大学特別教授 森地茂氏

※2 まちづくり調整会議の事前調整を行うために設置されている部会。座長：日本大学教授 岸井隆幸氏



A-A' 断面

南側から見たイメージ



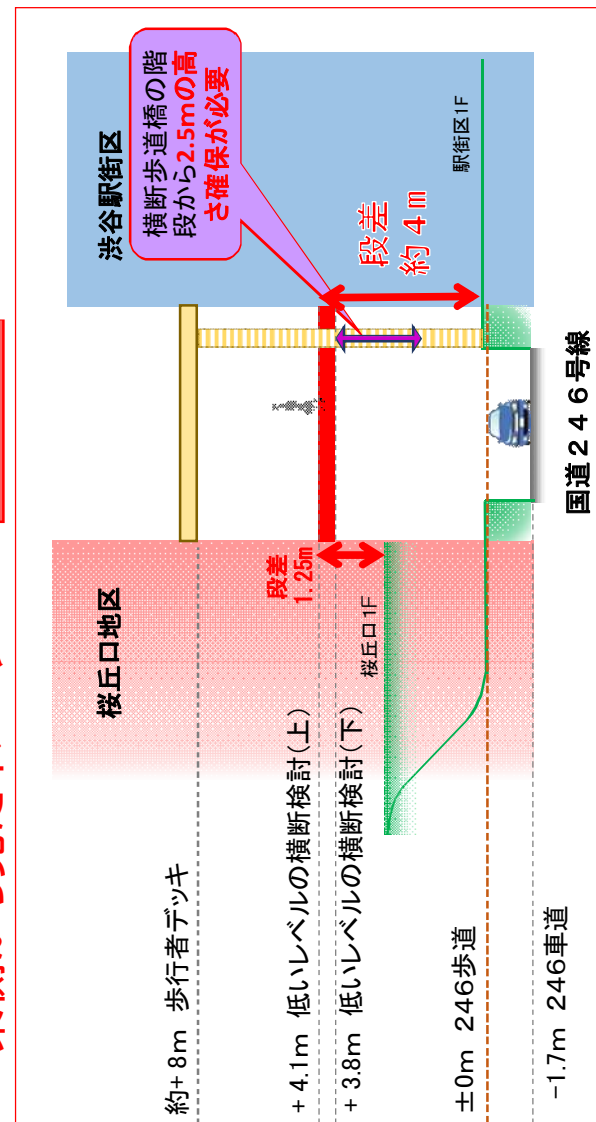
前提条件 (A-A' 断面)

246の地盤高はJR線を下越するためJR線に近い方が低くなっている。

検証① (A-A' 断面)

横断デッキの高さの条件は、歩道や車道の高さ、交差点部に整備される横断歩道の階段（斜路付き）があり、これらを踏まえて、横断デッキとして整備出来る高さを想定する。

東側から見たイメージ

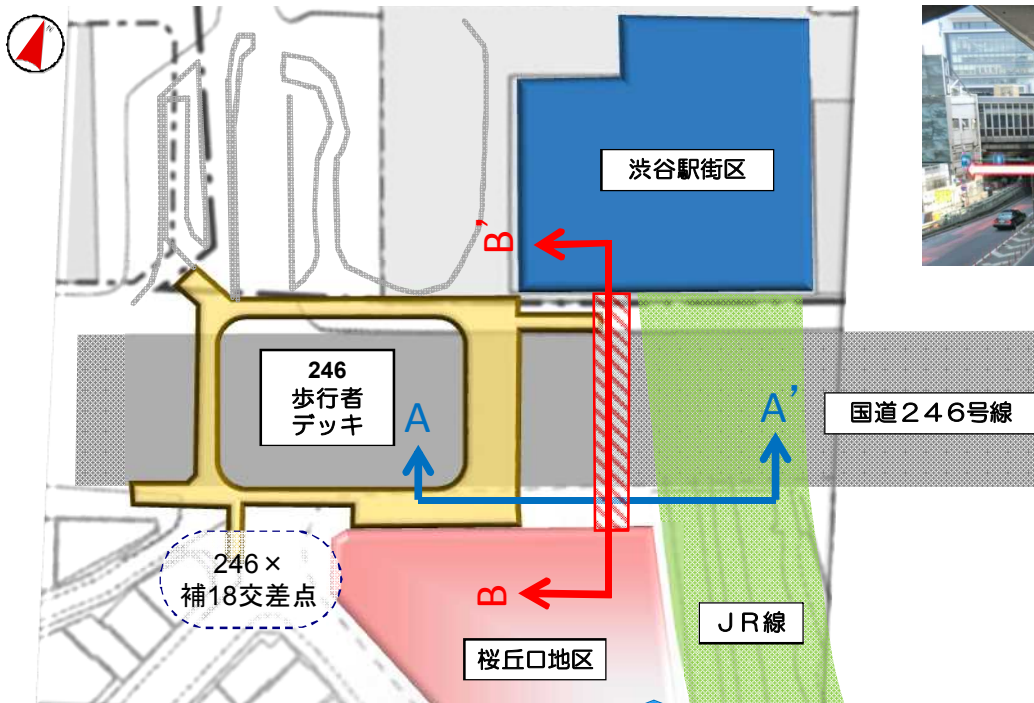


渋谷駅街区側に4mの段差が付くことからスロープで摺りつけた場合、延長86.5m必要となり、設置場所の確保が困難です。

(勾配1/20・踊り場5か所(段差75cm毎に1.5mの踊場)) ※移動円滑化ガイドラインより

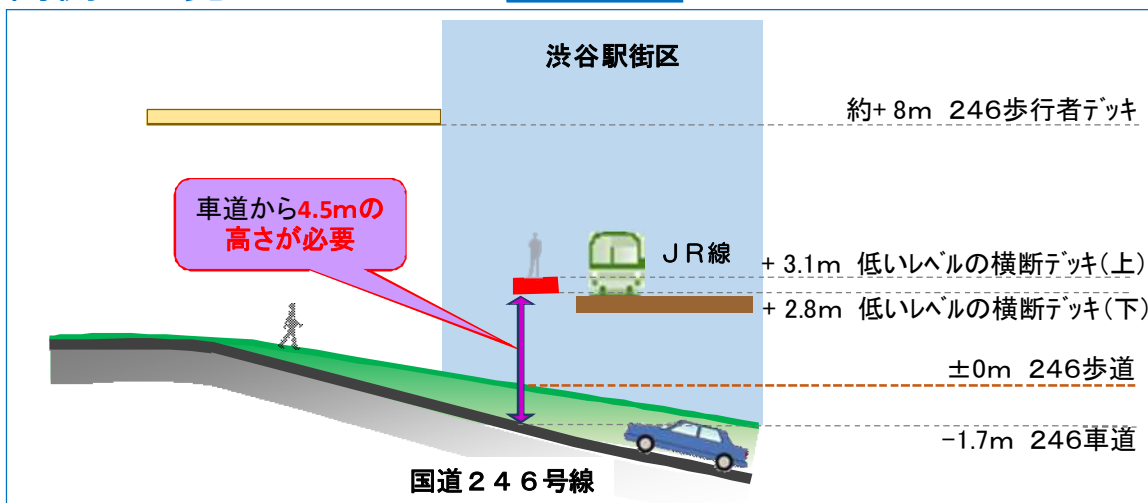
検証② (B-B' 断面)

両街区とも現計画での高さでは、擦りつけるために段差処理が必要である。



南側から見たイメージ

A-A' 断面

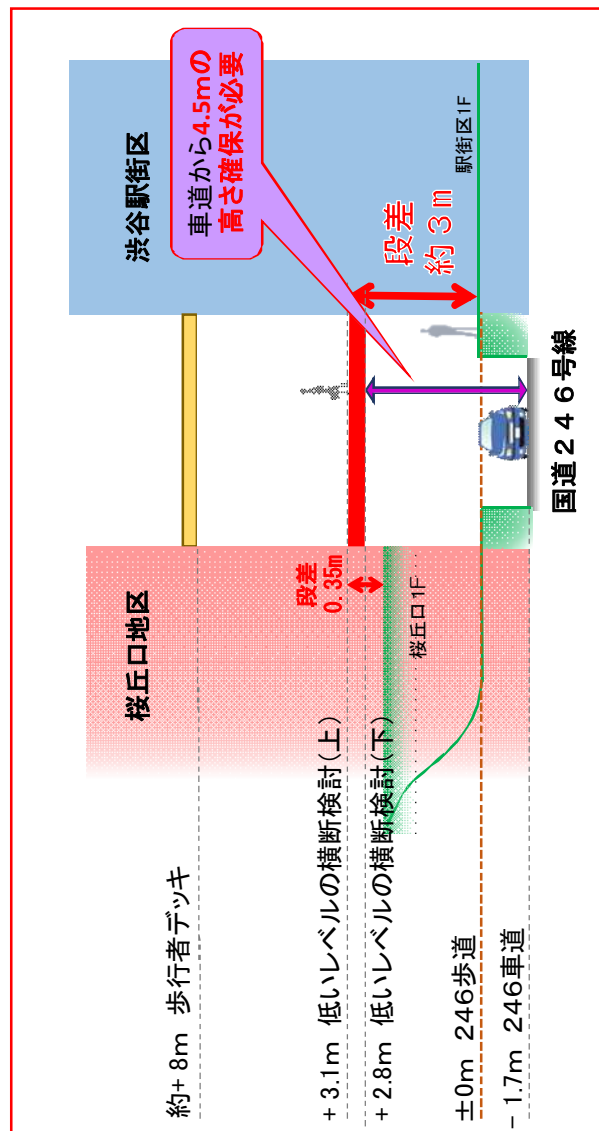


前提条件(A-A' 断面)

246の地盤高はJR線を下越するためJR線に近い方が低くなっている。

東側から見たイメージ

B-B' 断面



検証 (B-B' 断面)

- ・ 検証1に比べ、桜丘口地区側の段差は少なくなったが、渋谷駅街区側は、まだ3mの段差処理が必要である。

渋谷駅街区側に3mの段差が付くことからスロープで摺りつけた場合、延長67.0m必要となり、設置場所の確保が困難です。

(勾配1/20・踊り場5か所(段差75cm毎に1.5mの踊場) 移動円滑化ガイドラインより)